

# ワット・ビット連携の 今後の取組について

---

2026年1月  
総務省

# ワット・ビット連携の継続的推進

- **日本成長戦略本部**（2025年11月～）による17の「危機管理投資」、「成長投資」の戦略分野においても、**AIやデジタル・情報通信分野、エネルギー等のGX分野は、明確に盛り込まれており、「ワット・ビット連携（電力と通信の効果的連携）」の推進は、引き続き重要**

## 17の戦略分野

AI・半導体

造船

量子

合成生物学・バイオ

航空・宇宙

デジタル・サイバーセキュリティ

コンテンツ

フードテック

資源・エネルギー安全保障・GX

防災・国土強靱化

創薬・先端医療

フュージョンエネルギー

マテリアル（重要鉱物・部素材）

港湾ロジスティクス

防衛産業

情報通信

海洋



日本成長戦略本部での高市総理

予算折衝后会見での林総務大臣



## 2025年12月24日 林総務大臣 記者会見

我が国における新たな産業・雇用の創出や、地方創生を実現するためには、データセンターを核とした地域におけるAIの社会実装を含めたDXの推進が鍵となると認識しております。

その際、新たなデータセンターの整備によって、将来的に電力需要の一層の増加が見込まれる中、電力系統と通信基盤の一体的な整備を図っていく、いわゆる**ワット・ビット連携を進めることがますます重要**になってまいります。

- ワット・ビット連携の実現に向け、電力・通信・DC事業者と連携しつつ、足元の需要対策から今後の運用高度化まで、目標フェーズごとに、幅広い施策を官民で一体的・戦略的に推進

## <各フェーズの取組と当面の政府の取組>

※ワット・ビット連携官民懇談会「取りまとめ1.0」(2025年6月)

座長：村井 純 慶應義塾大学 特別特区特任教授

2030年頃

2030年代前半

2030年代後半

### 足元のDC需要への対応

2030年頃までの既存電力インフラ等を前提としたDC需要に応えるため、

- APNの研究開発による柔軟なDC運用のユースケース拡充を推進
- ウェルカムゾーンマップへのDC立地促進



#### (1) ワット・ビット連携関連実証

- APN活用によるDC分散運用やユースケース創出に向けた実証

### 新たなDC集積拠点の実現

- 2030年代前半に向け、GW級DC集積拠点を複数造成すべく、地域を選定するとともに、電力・通信インフラを先行的に整備



#### (2) 新たな大規模DC集積拠点の実現

- 新たな大規模DC集積拠点の複数造成に向け、GX戦略地域制度を推進

### DC地方分散・高度化の推進

- DCの地方分散を継続的に促進
- 2030年代に向けDC運用関連技術開発等を推進（高度なワークロードシフト技術の検討）



#### (3) デジタルインフラ強靱化事業

- データセンターの地方整備、海底ケーブルの地方での陸揚げへの補助支援

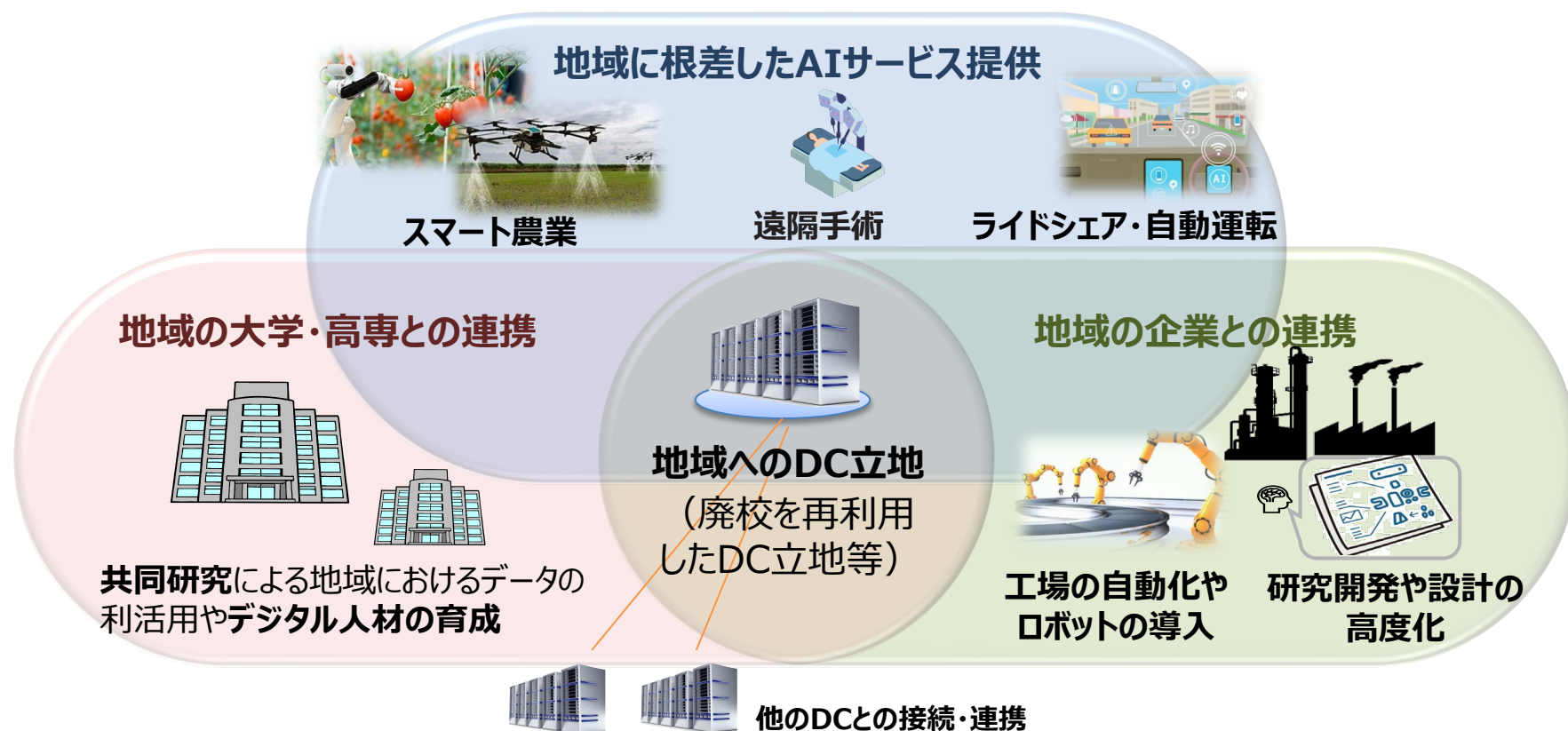


- (1) ワット・ビット連携関連実証 ・ 分散DCを利用した余剰電力の有効活用技術を実証

# 地方における分散DCの重要性

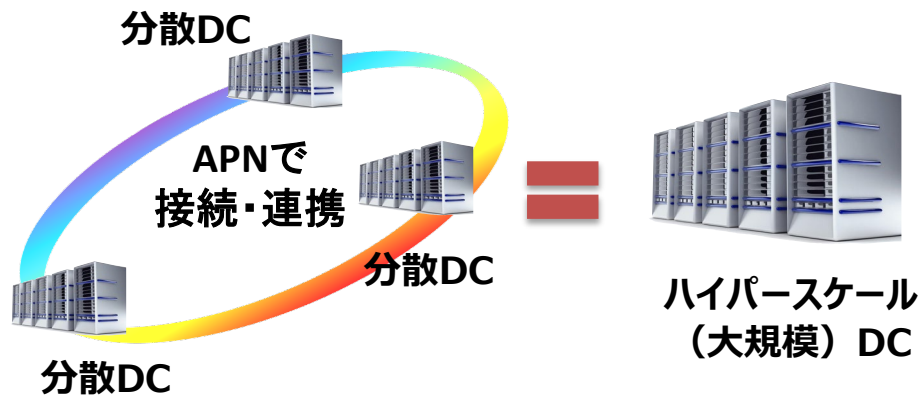
- 生成AIの利活用は今後、特に人口減少が著しい地方においても重要が増大（例）スマート農業、自動運転
- こうした**生成AIを推論により利用**していくには、需要地の近くでDCを運用する選択肢も重要
- 地方では、**DCを核として**、こうした先進的AIサービスの提供にとどまらず、**デジタル人材の育成**や**地域企業のDX化**にもつながる等、その地域の活性化への貢献が期待される
- このため、**地方で小規模の分散DCを構築**していくことが重要であり、分散DC立地・運用の**選択肢を増やすための技術実証**を促進していく

地域におけるDC立地を核とした地域活性化の貢献（例）



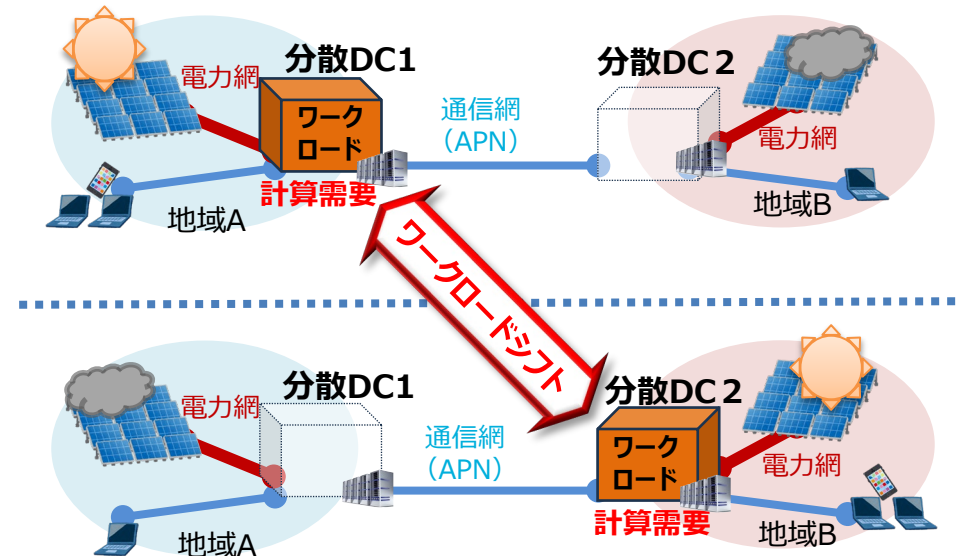
## <APNにより接続されたDC運用>

分散DCの有効性（APNで接続することにより、他の分散DC間の連携）を実証



## <分散DCによるワークロードシフト>

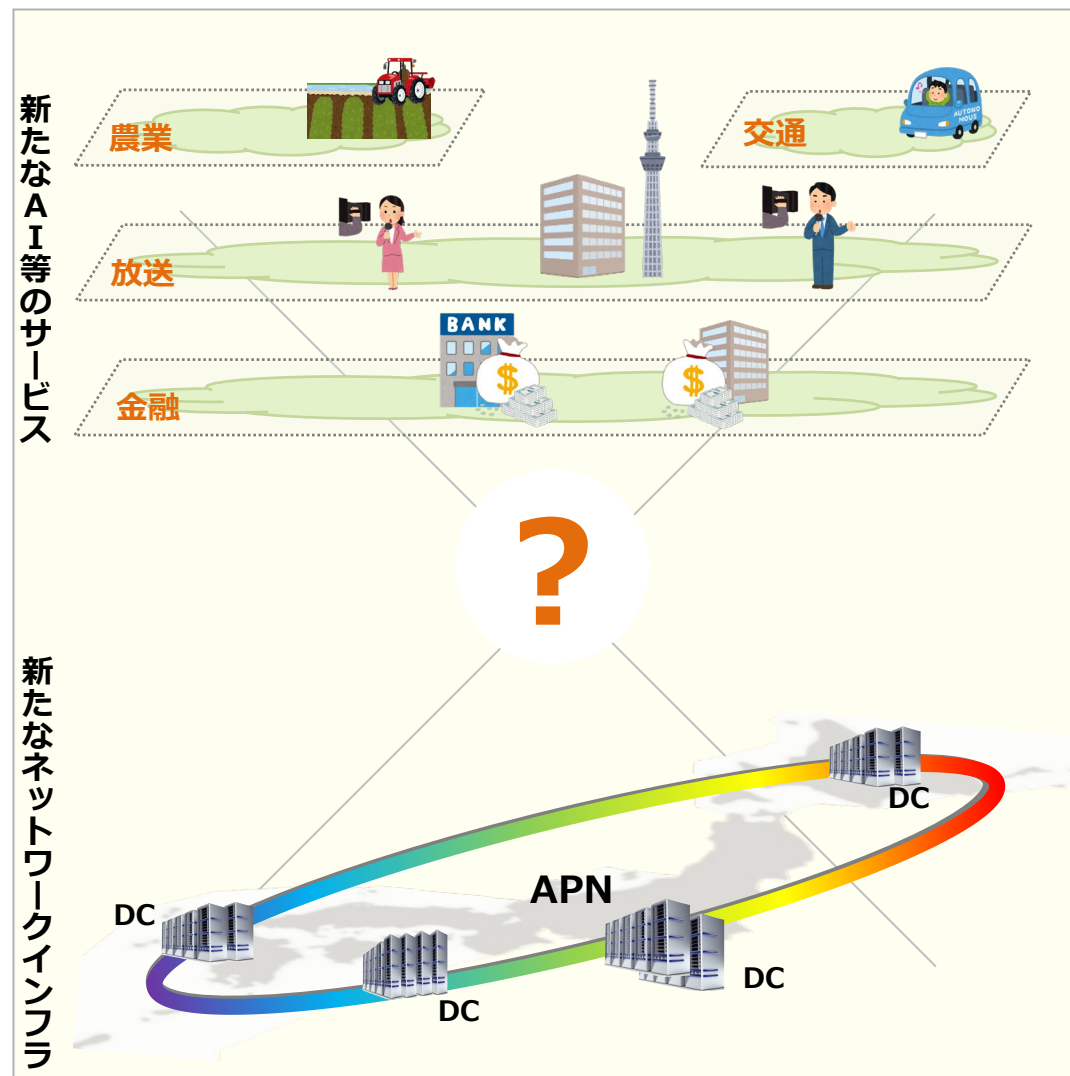
分散DCの高度な有効性（ワークロードシフトにより、GXに資する余剰電力等の有効活用）を実証





# ワット・ビット×AI×APN による新たなデジタルインフラ構築 (分散DCとAPNによるAIサービスの効果的な実装)

- ワット・ビット連携により、各地域の分散DCやAPNを核とした**新たなデジタルインフラ**をベースとして、実際に**各地域・各分野で実装されるべきAIサービスの効果的な実装**に向け、**官民で戦略的に推進**



## 各地域・各分野で 実装されるべきAIサービス

- ・ 広範囲の通信 vs. 局所的な通信
- ・ 遅延・ゆらぎにシビア vs. 融通が利く
- ・ 大規模データ vs. 小規模データ

それぞれの特性を踏まえた  
実装に向けた取組が重要

## ワット・ビット連携を前提とした 効率的・強靱なデジタルインフラ

- ・ 大規模災害への対処
- ・ 脱炭素電源の活用
- ・ 迅速なインフラ構築・拡張